

第65期（平成26年度）事業の概況

1. 会 員

会員数は、平成26年12月31日現在、名誉会員5、個人正会員1,850、団体正会員370（415口）、学生会員235の計2,460であった。理事会・会員委員会を中心に会員数の増強に努力し、個人正会員147、団体正会員11（11口）、学生会員116の新入会・復会を得たものの、個人正会員158、団体正会員27（29口）、学生会員124の退会があり、名誉会員2のご逝去とあわせて前年同期に比べ計37が減少した。

2. 会 計

平成20年度公益法人会計基準にあわせて決算報告書から収支計算書を除き、「貸借対照表」と「正味財産増減計算書」を中心とする構成に変更した。また、費用科目を事業別から発生形態別に変更し、事業別収支と予算進捗状況は「正味財産増減計算書 事業別内訳表」で管理した。

当初予算は、平成26年1月末の会員数と会費改定、消費税増税と景気の動向などを考慮し、前年より約583万円収益増、約446万円費用増とした。

これに対して、会費改定にともなう会員減少は予想の範囲内に収まり、受取会費は予算額の99.7%であった。受取会費のうち団体正会員会費と学生会員会費は予算に達したが、個人正会員会費は予算に達しなかった。一方、各事業の活性化を進めた結果、事業収益は予算額の112.3%となった。事業収益のうち講演大会収益、セミナー収益は参加者増により予算額を上回り、会誌発行収益、部会収益、支部収益、展示会収益は予算並みであった。学術討論会収益は例年より参加者が少なかったため予算を下回った。

このような状況の下で、前年に引き続き徹底した費用節約に努めた。特に講演大会事業では、大会開催大学のご協力により会場費、懇親会費を大幅に節約することが可能となった。また、会誌印刷費はページ数減少の結果、予算額の90.8%となった。結果として全体の経常費用は予算に対して95.2%であった。

以上より、協会全体の正味財産は27,322,412円となった。正味財産のうち基本財産への充当額は4,388,000円、特定資産への充当額は7,651,383円であった。

3. 講演大会等

講演大会は、春季（第129回：東京理科大学、3月13～14日）および秋季（第130回：京都大学吉田キャンパス、9月22～23日）の2回開催され、両大会の合計発表件数 351件、参加登録者 1,044名で昨年度より大幅に上回った。ポスターセッションおよび話題テーマによるシンポジウムは聴講者も多く、大会の活性化に寄与した。また、春季大会において「第20回学術奨励講演賞」を7名に授与した。秋季大会においては、「第16回優秀講演賞」受賞者3名を、「第3回学生優秀講演賞」受賞者5名を選考し、第131回講演大会において授与する予定である。なお、講演大会に合わせて武井記念講演会を2回開催し、多数の参加者があった。

また、第71回表面技術アカデミック研究会討論会「長持ちする表面とは」（東京理科大学森戸記念館、12月11日）を開催し、24名の参加者であった。

4. 会誌

12テーマの小特集および特集を企画し、年間12号の会誌「表面技術」を発刊した。ページ数は総計635ページ、掲載論文は、研究論文17件・技術論文6件・ノート3件・速報論文6件であった。

また、J-Stage [科学技術情報発信・流通総合システム；(独)科学技術振興機構 (JST)] には、「表面技術」の前身誌である「金属表面技術」および「現場パンフレット(後改称：実務表面技術)」の創刊号から第64巻(平成25年)12号まで掲載している。

平成27年3月から運用予定の電子投稿・査読システム(Editorial Manager)導入に伴い、「投稿規程」「投稿原稿作成の手引き」「表・図の表し方の手引き」「投稿原稿著者チェックリスト」「掲載料(別刷価格表含む)」を改訂し、新たに「原稿Web投稿上の注意」を作成した。

5. セミナー

セミナーを6回開催した。話題となっているテーマを取り上げた“自動車、航空/宇宙、医療分野において求められている表面技術”(東京理科大学 森戸記念館、10月8日)のほか、春季実習セミナー“めっき液の分析と管理”(大田区産業プラザPio、実習：エビナ電化工業㈱テクノマーク、5月22日)、“表面処理基礎講座(I)”(工学院大学 新宿キャンパス、6月25日)、“めっきプロセスの基礎と評価実習”(東京理科大学 野田キャンパス、8月4～5日)、“ドライプロセスの基礎と薄膜作製”(千葉工業大学 津田沼キャンパス、8月21～22日)、“表面処理基礎講座(II)”(工学院大学 新宿キャンパス、11月18日)を開催した。

参加者の合計は309名であり、昨年より大幅に増加した。

6. SURTECH

“SURTECH2014ー表面技術総合展”は、主催：本会・日本鍍金材料協同組合・ICSコンベンションデザイン、後援：全国鍍金工業組合連合会・日本表面処理機材工業会、特別協力：材料技術研究協会・日本塗装機械工業会・日本塗装技術協会・日本熱処理技術協会により、“nano tech 2014(国際ナノテクノロジー総合展・技術会議)”など7つの展示会と同時開催した(東京ビッグサイト、1月29～31日)。出展社(機関)は、46社87小間で昨年を上回り、特別企画展示「表面処理の再発見～めっきの奥深さがひと目でわかる!～」では、我が国のめっき加工業を牽引するめっき専業社の出展や「めっき実演コーナー」との相乗効果により多くの来場者を集めた。全体の来場者は48,216名であった。

7. 国際交流

金属のアノード酸化皮膜の機能性部会(ARS)は、2nd International Symposium on Anodizing Science and Technology 2014(AST2014)国際会議(シャトラーゼ ガトーキングダム サッポロホテル&スパリゾート、6月4～6日)を開催し、盛況裡に終了した。(招待講演18件、ポスター発表51件、口頭発表36件、参加者20ヶ国134名)

8. ISO規格検討専門委員会

国際標準化機構(ISO)のTC 107部門(金属及び無機質皮膜)の国内対応として、特別委員会の中にISO規格検討専門委員会(兼務：ISO/TC 107国内対応委員会)を置き、国際規格の制定などに協力した。

9. JIS規格検討専門委員会

特別委員会の中にJIS規格検討専門委員会を置き、JIS Z 2371（塩水噴霧試験方法）改正のための検討を進めた。

10. 表彰

協会賞1名、功績賞2名、論文賞1件、進歩賞1名および技術功労賞（団体正会員会社の永年勤続技術功労者）4名を表彰した。

11. 表面処理団体協議会（表団協）

本会と全国鍍金工業組合連合会、日本表面処理機材工業会の3団体で組織する表面処理団体協議会は、「表団協／産官学合同会議」を開催し、各団体での課題・話題・トピックスなどについて情報交換した。また、第25回表団協セミナー（東京都中小企業振興公社、11月25日）を開催し、参加者は55名であった。

12. 支部

北海道・東北・関東・中部・関西・九州の各支部は、それぞれの地域特性に対応した諸活動を活発に行った。特に、関西支部は第130回講演大会の成功に貢献した。

13. 部会

新たに「高機能トライボ表面プロセス部会」が発足した。本期に活動している部会は以下のとおりである。

- ① ライトメタル表面技術部会
- ② めっき部会
- ③ 材料機能ドライプロセス部会
- ④ 熔融金属表面プロセス部会
- ⑤ ウェットプロセス研究部会
- ⑥ 金属のアノード酸化皮膜の機能化部会
- ⑦ 溶射・ライニング部会
- ⑧ 表協青年経営技術懇話会
- ⑨ 表面技術環境部会
- ⑩ 環境および機能性に関する塗料部会
- ⑪ 表協エレクトロニクス部会
- ⑫ ナノテク部会
- ⑬ 将来めっき技術検討部会
- ⑭ 表面技術とものづくり研究部会
- ⑮ 高機能トライボ表面プロセス部会

14. その他

常務会の下に事業改革TF（タスクフォース）を設置し、下記事業における抜本的改革を実施した。

- 1) 会計では、平成20年度公益法人会計基準にあわせる決算報告書とすることとし、会計業務の簡素化を目的に会計事務処理を見直した。
- 2) 支部担当理事を指名し、支部と理事会との連携をスムーズにできる体制を作り、支部長会議を2回開催した。
- 3) 部会委員会の役割を検討し、その一環として代表幹事による部会懇談会を開催した。
- 4) 会誌編集委員会では、電子投稿・査読システムおよび掲載料について検討した。